

「世界へ広がる日本文化」～いけばなから Ikebana へ～

2019年7月3日(水)実施 JGA 第一支部研修報告

2019年7月3日(水)「世界に広がる日本文化」～いけばなから Ikebana へ～の研修が実施されました。

(会員18名、非会員3名、委員2名)の合計23名で関東地区のみならず遠くは佐賀、福岡県からもご参加いただき熱心に講義に耳を傾けました。講師は草月流師範会理事で JGA 正会員でもある平塚春子氏によるいけばなの歴史や流派などのお話を伺いました。いけばなはガイドイング時に「フラワーアレンジメント」と訳しがちだが少々ニュアンスが違うこと、それは西洋と日本の「花」に対する鑑賞の仕方、歴史に関係があるというお話は大変感慨深かったです。



西洋は「空間に花を隙間なく挿し、いかに美しく見せるか」を目的としたものに対し、日本のいけばなはもともと神道の「依代」からきており、それがのちのいけばなに発展したもので、左右対称やカラフルな花の配置よりも自然の命や宇宙をあらわすことを目的としている、極端に言えば「花」がなくてもいけばなといえる、という話に参加者は熱心にメモをとっていました。後半では平塚春子氏みずから4例デモンストレーションで実際に花をいけていただきました。

一見、この花と茎と葉が一つの花器にどうなるか全く想像がつかなかったのですが角度や高さ、見る(見せる)方向によってこ

んなにも一つの世界がひろがるものなのだといけばなの奥深さを実感されられる講義となりました。その後参加者にも実際に「生きた」花をいけていただき、同じ素材でも個性のあるいけばなの完成に拍手が沸き起こりました。

最後の質疑応答も多くの参加者から質問があり、解説、回答、説明がとてもわかりやすくガイドイングですぐに役立つ内容でも充実したいけばな研修となりました。

